

要 旨

本研究は、国立公文書館（以下「館」という。）所蔵資料を対象としたファミリーヒストリー調査者の多くが、独力で目的の資料にたどり着くことが困難であるという課題を解決するため、新たな検索支援の検討により、その解決を図ることを目的とする。その背景として、ファミリーヒストリーを調べたいという問い合わせが多くみられるが、その調査者自身では、膨大な数の館所蔵資料の中から調査対象の資料群を特定できないこと、探している人物が記載されている可能性のある資料を特定できないこと、という課題がある。

第1章では、まず、レファレンスが多く、第3章で事例とする厚生労働省移管引揚者関係資料群の概要を確認する。次に、“Keeping Archives”の第12章「Finding Aids」の中の7種類の検索手段を手掛かりに、館における当該調査者への支援の状況の確認を行い、館における当該調査者への支援の課題に対応する検索支援を明らかにした。

第2章では、検索支援の検討のため、オンライン上でファミリーヒストリー調査者への支援を目的とした検索支援を提供している国内外のアーカイブズ機関を対象として事例調査を行った。各館で検索支援が多い場合は、第3章で事例とする引揚者関係資料に近いと考えられる、移民や乗船者に関する資料の検索支援の構造に焦点を当てた。本調査では、

(1) ウェブサイトのトップページから検索支援までの動線、(2) 検索支援で提供する項目や情報、(3) 検索支援で提示した資料群内の検索方法等について確認し、館に必要な当該調査者への検索支援の要素を抽出した。

第3章では、第2章の結果と、第1章で確認した館の状況等とを踏まえ、館におけるファミリーヒストリー調査者の多くがレファレンスに頼ることなく目的の資料群及び資料を特定できる検索支援を作成した。検索支援の作成にはあたっては、レファレンスの多い、引揚者関連の資料を探している調査者が利用することを想定した。また、ウェブサイトのトップページから当該資料群情報の提供、当該資料群内の資料特定のための検索方法までを含む検索支援を作成した。そして、作成した検索支援が、本研究で設定した課題に対して、どの程度の解決を図れているかという視点で考察を行った。

最後に、今後の課題として、他の資料群の検索支援、検索支援ツールの拡充等について述べ、今後の展望とした。